



重村智計 著

『北朝鮮の外交戦略』

(講談社)

長い間闇のベールに包まれていた北朝鮮は、昨年6月の歴史的な南北対話の実現や、西側諸国との相次ぐ外交関係の樹立によってその動向が注目されて来ています。

工作活動や軍事力の増強に裏打ちされた南北統一政策の推進、経済の悪化や亡命者の増大等、内政、外交の両面において幾多の困難や、体制崩壊の危機に直面しながらも、日朝正常化交渉や米朝交渉、南北会議など、巧妙に計算され尽くした北朝鮮の外交戦略を本書は解り易く解説しています。

319.21-Shi (T.K.)



賀川洋 著

『ビジネスバトル：日本人 VS 外国人』

(講談社インターナショナル)

今や、取引先だけでなく、上司、同僚、部下までが外国人というのがごく当たり前になってきています。互いの育った環境や文化背景が違っていると、思いがけないことで摩擦や衝突が起こります。本書では、外国人とのビジネス・コミュニケーションの課題を異文化環境での誤解のプロセスに焦点を当てて、わかりやすく解説しています。そしてお互いが建設的にチームを創造し、信頼関係を築いてビジネスを進めていくノウハウを手ほどきします。

336.4-Kag (S.S.)

米原万里 著

『ロシアは今日も荒れ模様』

(講談社)

ロシア語会議通訳を本業としながらも、物書きやテレビ出演など、幅広く活躍する米原万里氏のエッセイ集。通訳という職業柄、ソ連時代に100回以上、崩壊後に30回近くロシアを訪れる。当然、ロシア及びロシア人に関するネタは尽きない。

ゴルバチョフやエリツィンなど、超大物政治家に身近に接する機会にも恵まれ、その体験談は裏話としておもしろいだけでなく、歴史的証言としても貴重であると思われる。

302.38-Yon (Y.N.)

佐々木寛 著

『南からの世界史』

(講談社出版サービスセンター)

日本人の歴史観は、高校までの教科書のみでもわかるように、西洋、中国を中心とした大国、強者中心の歴史を主流としたものです。

しかし、真の国際人となるためにはそのような北側中心の単線の世界史ばかりでなく、支配される側にあった南側も視野に入れた複眼的な見方を培う必要があります。

本書は、西欧中心の世界史から取り残されたアフリカ、東南アジア、オセアニア、ラテンアメリカの歴史と文化を扱った画期的な第三世界史の入門書です。

209-Sas (S.N.)

高橋茅香子 著

『英語で人生をひろげる本』

(晶文社)

皆さんこの大学で言語の習得をめざして日々勉強なされているわけですが、どのようにすればもっと効率よく勉強することができるのか、悩んだことがあるのではないのでしょうか。

本書では英語を生活のなかで学ぶヒントが詰まった一冊です。映画や読書といった自分の関心があることと英語を結びつけることが、どんな勉強法よりも効果的なことであるのかを本書を通じて感じていただきたいと思います。

830.7-Tak (H.M.)